

平成27年度 市政執行方針

平成27年第2回市議会定例会が、6月22日から開催されました。

今回の定例会での補正予算が善岡市政2期目の政策予算であり、子育て世帯への支援事業やスマートインターチェンジ開通にあわせて行う市街地への回遊事業などの予算が議決されました。これから新たなまちづくりが始まります。

はじめに

私は、過日行われました市長選挙におきまして、市民の皆様の温かいご支援を賜り、引き続き、砂川市長として2期目の市政を担うことになりました。

あらためて責任の重さに身の引き締まる思いであります。初心に帰り市民の皆様のご期待に応えられるよう、全力でまちづくりに挑む所存であります。

また、2期連続の無投票という結果であり選挙の洗礼を受けておりませんが、1期目は私の政策と市民の皆様が求めて

いるものに差があつてはいけないという思いから、その考え方の違いを確認するため、積極的に市民の皆様と対話をし、意見をいただきながら行政運営を行ってまいりました。これからの4年間も1期目と同様に自らが動き、市民の声を聴き、

自らが政策を決定していくというスタイルを続け、より効果的な事業を選択し、まちづくりを進めていきたいと考えているところであります。

また、今年、人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたり活力ある社会を維持していくため、まち・ひと・しごと創生法に基づく人口ビジョンと地方版総合戦略の策定が全市町村に求められております。策定にあたっては、国の総合戦略を勘案しつつ、効果の高い施策を実施していく観点から、産業界をはじめとして多くの関係者の皆様と懇談を行い、ご意見をいただきながら進めてまいります。

補正予算

保育所の保育料軽減やハートフル住まいる推進事業の拡充などによる少子化対策、地域経済活性化が期待されるスマートインターチェンジ開通にあわせた市街地への回遊促進策などを行うものとした。

さらに、建設事業では、道路の新設改良事業、公園改修整備、公営住宅の改修および団地環境整備事業などを実施するとともに、教育施設の改修などを実施するものとして、予算の編成を行いました。



8月8日(土)に開通する砂川SAスマートインターチェンジ出入口

総務費

●市役所庁舎
耐震性や利便性に課題のある市役所庁舎について、市民の意見を聴く「庁舎整備検討委員会」を設置して、今後の整備について検討を進めていきます。



昭和45年に建設された市役所庁舎

●定住促進・少子化対策

未婚者を結婚へと導くため、市内関係団体による「すながわ出会い創出支援協議会」を設立して、婚活の具体的な研究などのほか、未婚者への情報提供を行うと

ともに、独身男女の出会いの場となるイベントなどを実施する団体に対し、支援を行っていきます。

●地域公共交通の導入

地域公共交通会議において、実証調査運行や各種調査事業を実施して検討を進めてきましたが、利便性・効率性・持続性が高いジャンボタクシーなどによる予約型乗合タクシーの本格運行を今年10月1日より開始し、高齢者などの移動手段の確保を図っていきます。

民生費

●高齢者世帯などの除雪

生活路の除雪を行う除雪サービス事業に加え、屋根雪などの除排雪を自力で行うことが難しくなっている高齢者などの世帯が増えてきていますので、除排雪に係る費用の一部の支援を行い、除雪作業中の事故防止、適切な住環境の確保を図っていきます。

●子育て支援事業

乳幼児のいる世帯では、紙おむつなどの処理に多くの指定ごみ袋を使用することから、0歳から3歳未満の子どもを持つ世帯に対し、燃やせるごみ袋を配付し

て、子育て世帯の負担軽減を図っていきます。

●保育サービス

今年9月より保育所の保育料一律10%の軽減を図るとともに、保護者の育児に伴う負担の解消のための一時保育事業について、対象児童を2歳児以上から1歳児以上に引き下げ、子育て支援の充実に努めていきます。



一時保育を行っているひまわり保育園

衛生費

●安心して出産できる体制づくり

出産を迎える妊婦はさまざまな不安を抱えていることから、健康診査および超音波検査について、出産まで安心して受診できるよう、経済的負担を軽減する補助制度を拡充します。また、陣痛が起きた際の病院への移送について、タクシー

事業者のご協力をいただき、事前に登録を行うことで、優先して配車される仕組みを構築するとともに、移送時に使用する使い捨てシートなどを事業者に配布するなど、安心して出産できる体制づくりを図っていきます。

●インフルエンザ対策

インフルエンザの発症および重症化の予防のため、中学生までの予防接種に対する費用の一部を補助することで、子育て世帯の経済的な負担の軽減を図り、接種しやすい環境づくりに努めていきます。

●ごみの不法投棄対策

ごみの不法投棄が増加傾向にあることから、監視カメラを増設し、山林、高速道路の側道など、人目に触れにくい場所での不法投棄防止体制の強化を図り、あわせてパトロールを実施するなど、関係機関と連携を図りながら地域の環境保全に努めていきます。

農林費

●農業の持続的な発展

地域の担い手として中心となる経営体が経営の規模拡大や多角化などに取り組み際に必要となる農業用機械の導入に対

する支援を行い、意欲ある担い手の育成および確保に努めていきます。

商工費

●中心市街地の活性化

市街地回遊事業やスイートロード事業を行っている「砂川市中心市街地活性化協議会」に対する補助を行い、それらの事業展開によって中心市街地のにぎわい創出と活性化を図っていきます。

●商店会連合会商品券発行事業

砂川商店会連合会に補助を行い、市内での直接的購買を促すことにより、商店街の振興を図っていきます。

●スマートインターチェンジ利用者への市街地回遊策

スマートインターチェンジを利用して市内経済の振興を図るため、情報雑誌などのメディアを活用したPRおよび新聞広告の掲載によって、情報提供を進めるとともに、ハイウェイオアシス館内にモニターを設置して砂川のPR映像を映し出し、市街地への回遊促進を図っていきます。

土木費

●交通網の整備

17路線の改良舗装・交通安全施設工事および測量委託を行うとともに、橋りよの長寿命化にも取り組むなど、幹線道路および生活道路の整備を進め、道路環境の向上および交通安全対策に努めていきます。

●都市計画用途地域

計画的なまちづくりを進めるための都市計画用途地域について、都市計画マスタープランに即し、周辺環境との調和に配慮した見直しを行うとともに、交通量などに応じた街路網の見直しを行っていきます。

●公営住宅の整備

宮川中央団地の長寿命化を図るため、排水管改修工事を継続して実施するとともに、東町団地集会所について、長寿命化工事にあわせ、バリアフリー工事を実施し、コミュニケーション施設として利便性を高めていきます。

また、団地の環境整備を図るため、宮川中央団地の公園整備を継続して実施するとともに、新たに北光団地の公園環境整備にも取り組み、団地内の交流の場と

して、施設の充実を図っていきます。



宮川中央団地

●ハートフル住まいる推進事業

住生活基本計画に基づき進めている、定住促進およびまちなか居住などのための民間住宅施策であるハートフル住まいる推進事業において、子育て世帯への支援を図るため、新たに永く住まいる住宅改修補助金について、18歳以下の子どもがいる世帯に対して上乗せ補助を実施します。また、まちなか住まいる等住宅促進補助金についても18歳以下の子どもがいる世帯に対して子どもの人数に応じた上乗せ補助を実施するとともに、市外からの移住促進策として、まちなか住まいる等住宅促進補助金では新規転入者に対する、1世帯20万円分の商品券を交付するなど、制度の充実を図っていきます。

消防費

●災害対策

災害発生時に必要な食料などのほか、非常用発電機などの備蓄を、引き続き計画的に進めるとともに、迅速な応急対応ができるよう、備蓄品を保管するための防災備蓄倉庫の建設に取り組んでいきます。

教育費

●各小中学校の整備

老朽化した施設、設備の改修などを行うとともに、校内LANの環境整備を行うなど、教育環境の改善に努めていきます。

●公民館の耐震改修等

利用者の皆様のご理解をいただき、耐震改修などに取り組んでいるところですが、この改修にあわせ、老朽化が進んでいる各種備品についても更新を進めるとともに、照明のLED化を行っていきます。

●海洋センターの整備

体育館の屋根改修および艇庫のアスベ

スト除去工事を実施していきます。



改修を行う海洋センター

以上が、今回、予算措置をした事業の主なものです。

これら一般会計の追加事業費は、7億4,925万円を計上する一方、この補正予算に要する財源については、歳入で国・道の補助金6,795万1千円、市債の3億1,610万円、ふるさと応援寄附金を活用するため、積み立てた基金から1,272万4千円の繰り入れを行い、なおも財源不足が生じたことから、財政調整基金からの取り崩しを行っていきます。

この結果、補正後における予算規模は、11億7,900万円となり、前年度の当初予算と比較して、5・6%の増となったところであります。

これからの まちづくりの課題

2期目の市政執行にあたり、つぎの点をこれからのまちづくりの課題として取り組んでいきたいと考えています。

少子化対策と子育て支援の充実

若い世代などが安心して子どもを生育できる環境づくりを創出するため、出産に向けた支援、出産後における子育て支援に取り組んでいきますが、さらに子育て中の保護者が安心して就労することができるよう、保育所などに入所中の児童が病気になった場合および病気の回復期において、一時的に児童を預かることができる病児・病後児保育施設の開設を検討していきます。

また、多子世帯については、同一世帯から同時入所を条件として保育料を2人目を半額、3人目からを無料としています。また、上の子どもが同時入所していない場合でも現行と同様の支援ができるよう、子育て世帯の負担軽減を検討していきます。

市民がいつまでも安心して暮らし 続けることができる社会の構築

国民健康保険の加入者を対象とした特定健診については、未受診者への勧奨訪問および健診体制を見直し、受診率の向上に取り組むことで、生活習慣病の発症および重症化の予防につなげていきます。市民の皆様が健康であり続けることができるよう、食生活改善協議会とも連携し、健康維持・増進に努め、超高齢社会のなか、今後予定しています介護施設整備などに伴う、介護保険料の上昇抑制にもつなげていきます。

また、高齢者の見守り・支える仕組みについては、平成25年度から市が保有する65歳以上の高齢者情報などを基に町内会や民生委員の皆様などのご協力をいただきながら取り組んできました。高齢期を迎えても地域で安心して暮らすことができる地域包括ケアシステムを構築するためには、今後も支援が必要な高齢者を的確に把握し、見守りにつなげるとともに、医療と介護の効果的、効率的な連携および生活支援などが求められています。

このことから、引き続き、地域における高齢者の見守り事業に取り組むとともに、市立病院の電子カルテなどの患者情報を共有するネットワークを構築するため、市内の医療、介護などの関係機関に

よる協議会を設立し、稼働に向けた協議を進めていきます。

市立病院については、超高齢社会を見据えた医療制度改革の推進など、病院を取り巻く環境がさらに変化していくなか、地域医療の中核としての役割を今後も担い続けることができる安定した経営基盤の確立と質の高い医療の提供に取り組んでいきます。

JR 砂川駅のバリアフリー化

この事業については、砂川市のみで実施できるものではないことから、手法も含めて、引き続き関係機関と検討、協議を進め、駅利用者の利便性向上に向けて取り組んでいきます。

おわりに

今年 は 地方 創 生 元 年、砂川市においても、地域の特色や資源を生かし、市民の皆様 に 身 近 な 施 策 を 幅 広 く 展 開 す る こ と が 必 須 であり、とりわけ、人口減少に歯止めをかけるための少子化対策、定住化対策がたいへん重要であると考えています。

そのためには、これからの4年間、私自身が先頭に立ち、全身全霊をかけてまい進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解と一層のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。平成27年度市政執行方針といたします。



砂川市長
善岡雅文